

取組概要

2026 年 1 月 20 日

埼玉県立大学 学長

候補者 所属学科 看護学科
氏 名 波多野 真弓

私の取組は次のとおりです。

このたびは、学生の皆さんの投票により、このような機会をいただき、心より感謝申し上げます。

日々のかかわりの中で大切にしてきたことをこのような形で評価していただいたことを、大変ありがたく感じております。

－教えるより「伝える」関わり－

私は、看護を「教える」ものというよりも、自分が大切にしてきた看護を「伝える」ものとして捉えてきました。知識や技術の習得だけでなく、目の前の相手を大切に思う看護の姿勢を、日々のかかわりの中で感じ取り、考えてもらえるよう心がけてきました。正しい答えを示すというよりも、学生とともに考え、ともに悩み、ともに成長する関係であることを大切にしてきました。

－学生一人ひとりと向き合う関わり－

現在、科目責任者として大きな枠組みを担っている立場ではありませんが、講義や演習、実習指導、そして学生との日常的な関わりの中で、学生一人ひとりの対話を大切にしてきました。私自身の経験やそれにまつわる失敗談も共有することで、看護のリアルな姿を学生の皆さんとともに考えられるよう努めています。学生が「わからない」「自信がない」と感じているときには、その状態を否定するのではなく、今感じていることを一緒に整理し、次の学びにつなげられるよう心がけています。

－目の前の相手を大切にする看護を、教育の中で－

看護の現場で大切にしてきた、目の前の相手を大切にする姿勢は、そのまま教育の場にもつながっていると感じています
基礎看護学実習において、患者さんとのかかわりに戸惑う場面では、「その場で何

を感じたのか」「相手にとって何が大切なのか」を一緒に問い直し、看護の意味を考える時間を大切にしています。このような対話の積み重ねが、学生一人ひとりが自分の言葉で考え、学び続ける力につながると考えています。

最後に

今回、学生の皆さんから寄せられた言葉は、私にとって大きな励みとなりました。ひとえに、日々ともに教育に携わり、支えてくださっている先生方のお力添えあつてのことと、心より感謝申し上げます。

学生一人ひとりが自分なりに考え成長していく姿を見るのが、私自身の大きな励みです。また、私自身も看護の奥深さを学生から学ばせてもらっていると感じております。今後も学生の皆さんとともに学び続けながら、誠実に看護教育に取り組んでいきたいと考えています。